

平成31年2月

同志社大学大学院総合政策科学研究科
一貫制博士課程 今井 裕紀

学術研究「慢性疾患を持つ従業員のスティグマに関する研究」

(1)学術研究の成果の概要

慢性疾患を持つ従業員の機能的制限がディストレスに与える影響について研究を行った。本研究で着目する機能的制限とは、身体機能、日常役割機能、社会的な生活機能の制約を表す概念である。

データと分析手法について、平成 22 年国民生活基礎調査匿名データから糖尿病、脳卒中、狭心症・心筋梗塞、がんのいずれかを持つ就労者を抽出して分析に用いた。分析に用いた主な変数について、健康上の問題で日常生活に影響があることを機能的制限とした。ディストレスは k6 尺度を用いた。分析手法はロジスティック回帰分析を用いた。

匿名データによる分析の結果、機能的制限はディストレスを高めることが明らかになった。また、非正規雇用者および女性就労者であることは機能的制限がディストレスに与える影響を強めていた。

結果からは、慢性疾患を持ち、日常課題の遂行能力の制約を抱える従業員がストレスを抱えずに働くことができる職場環境を整備するためには、機能的制限を持つことに配慮した職場運営や職務の割り当て等、職場における支援が必要であることが示唆された。また、非正規雇用者や女性就労者において問題が深刻化する傾向が示されたことから、職場において周辺化されやすい人々の状況に特に配慮し、支援を検討することが必要であると考えられた。

(2)学術研究の成果の公表の取扱い

論文

"An Analysis of the Association between Functional Limitation and Distress among Employees with Chronic Illness: Moderating Roles of Gender and Employment Status", *Doshisha University Policy & Management Review*, Volume 19, Number 2, March 2018, pp. 135-146. (「慢性疾患を持つ従業員における機能的制限とディストレスの連関：性別と雇用形態の調整効果」『同志社政策科学研究』第 19 巻第 2 号、pp.135-146、2018 年 3 月。)

URL: <http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000017000>

学会発表

「慢性疾患を持つ従業員のストレスと企業規模及び雇用形態」経営行動科学学会、明治大学、2016年11月。

"Effect of Social Structure on the Association between Chronic Illness and Distress", American Sociological Association, Montreal Convention Center, August 2017. (「社会構造が慢性疾患とディストレスの連関に与える影響」アメリカ社会学会、モントリオール国際会議場、2017年8月)

その他

博士学位論文「慢性疾患を持つ従業員の機能的制限がディストレスとウェルビーイングに与える影響についての研究」(平成31年3月に学位授与見込み、学位授与後1年以内に同志社大学学術リポジトリで公開予定)